

妹

高校生

おつた

帯状疱疹になつてしやつた

不金けない 踵のうきも足の

誰れにも

相模する人もいらない

これかろいじうあ日か ちやくろいづの

くらり顔のそ子 学取へ行く

左にそれ印の目方

仰くとも 印き先をどうやつて見つたか入

何とかしそ中れは ちろい

卒業が近づくとも ちろい ちろい ちろい ちろい

ストし又か大さかつた

今日 妹 <sup>おとう</sup> 帯状疱疹になつてしやつた

と さいた時 痘疹の跡を思ひ出しおつた

耳の下から首にかけつた ときつていふ

顔でそくと下かつた

こころの新しい寒さのストし又か大さかつたのだ

寒い 寒いと言つていふ

ひんすす ~~あつた~~ あつたにさすれは ちろい ちろい

ちろい ~~ちろい~~ ちろい

キナとルノルを今この昔の月を

自らの体を守る 子とは二の次 三の次だ

私がうるさく 可成りたくすゝとを言ふ身

んが どのも言う人はいない

これ何れも 二ははなしえり、時

何本業だ

これも何を守つておん人はいない

自らを守りしかな

とばかり 天葬の場をいってほしい

2021  
12/17